



Walk with Children

めぐろ



せいび

216 号
2025 年 10 月

サレジアン国際学園目黒星美小学校

『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、
わたしにしてくれたことなのである。』
(マタイ 25 章 40 節)

校長 シスター小島理恵

例年になく、暑さが長引いた 9 月を終え、ロザリオの月、10 月を迎えました。今月、19 日日曜日には、サレジアンファミリーにとって喜ばしい出来事がバチカンのサンピエトロ広場で行われます。サレジアンシスターズのシスターマリア・トロンカッティが「列聖」*される式が、教皇レオ 14 世によって挙行されるのです。

シスターマリア・トロンカッティは 1883 年生まれのイタリア人ですが、エクアドルのアマゾン地方に宣教女として派遣され、先住民シュアルの人々のために医療・教育・宣教に身を捧げ、多くの善を行いました。当時、その地域では、入植者とシュアル族の間の紛争が絶えず、人々は憎しみ、涙、痛みを抱えて生活していました。心を痛めていたシスターは、争いの終結、平和のために祈りました。「いけにえが必要なら、主よ、私をお取りください。」と。その数か月後、1969 年 8 月 25 日に飛行機の墜落事故で亡くなります。シスターの死は、シュアル族のみならず入植者の人々の中にも、大きな悲しみをもたらしました。

シスターの死後、その地域には徐々に平和が訪れました。神様はシスターの捧げものをしっかりと受け取ってくださったのでしょ。シスターマリア・トロンカッティのように生きるのは難しいですが、人と関わる毎日に少し色を添え、親切な行い、優しい言葉かけに気をつけて生活したいものです。

一大イベントである音楽会が終わり、子ども達は前期の締めくくりの時期に入っていきます。今月も、どうぞよろしくお願い致します。

*列聖とは、生前、他者のために自身を捧げ、神様の望まれる生き方に徹した人が、亡くなった後、その業績が認められ、「聖人」の列に加えられるというもの。そのためのしるしとして「奇跡」があることが条件となる。



ロザリオの集い



宗教科

「われらの母なる恵みのマリア…」10 月になると毎朝、校舎 3 階の聖堂やミレニウムホールから、子どもたちの祈る声と聖歌を歌う声が響きます。アヴェ・マリアの祈りを繰り返す度に、手にしたロザリオの珠を紡ぎながら、真剣なまなざしで世界の平和、そして私たちの心の平和を祈る声が響きます。

私も小学生時代、10 月には毎朝、学校のルルドの前に集まってロザリオの祈りを唱えたことを覚えています。初めてロザリオを買ってもらった時の喜び、母が作ってくれた小さなロザリオ入れに入れて毎日大切に学校に持ち歩いていたことを、大切な思い出の一つとして覚えています。

世界に目を向けると、まだまだ「平和」とは程遠い苦しみの中で毎日を過ごしている方々がおられます。私たちの小さな祈りが天に届き、世界に平和が実現する日を願いながら、今年も子どもたちと共に祈りを捧げていきたいと思ひます。

運動会

「わっしょいわっしょい!!」応援団のリードに、全校の子どもたちの元気な声が会場に割れんばかりに響いていました。勝敗にこだわらず、頑張った友達にたくさんの拍手や声援が送られ、星美らしさがたくさん見られた温かい運動会でした。



楽しかったな、うんどう会

2年

わたしは、うんどう会にむけてお家でもうたを聞いて「ここをこうすれば、もっと上手になるな」と思いながら、ダンスのれんしゅうをしていました。わたしはおどるときに、おとうさんとおかあさんに元気いっぱいパワーをおくってあげました。そして、こころをこめておどり、おどっているじかんにかんしゃしました。

本ばんがはじまって、「モーニングサン」のきょくがながれたときにわたしはドキドキして、まちがえないでできるかなと思いました。でも、パワーをおくれたし、元気に楽しくおどることができました。

お家にかえってからお母さんに、「がんばったね。」と言われてとてもうれしかったので、つぎのうんどう会もがんばろうと思いました。

やりきった運動会

5年

ぼくは「目黒星美の力と技」の組体操で土台でした。最初は練習の時にとてもいたくて土台がイヤでした。でも、先生の話を聞くうちに協力の意味が少しずつ分かるようになってきました。土台がいないと演技ができなくなってしまったと思います。はじめ、やりきるということを意識しはじめようになりました。また、二人で演技する補助倒立で、倒立をするぼくは足がなかなか上がらず足を受け止める友達もなかなか受け止められないときがあり、どうしようかとなりました。しかし、家で練習するうちに足が上がるようになり、練習で成功することができました。このことで自信がつき、組体操も頑張ろうと思うようになりました。実際に、練習では成功させることができました。

むかえた本番、ぼくはすごくきん張りました。まず最初に波。どんと人と前からたおれて行き、自分の番です。勇気を出してたおれることができました。次は、補助倒立です。がんばって足を上げ成功することができました。組体操もやりきるぞという気持ちで取り組みました。そして、成功し、喜びの気持ちになりました。

ぼくは、この運動会でやりきる、あきらめないということを五年間の小学校生活の中で一番実感しました。来年もやりきるという気持ちで、上で演技をする人が安心できるように心も体も土台をつくれるようにしたいです。

運動会

3年

ぼくは、7月4日にとどろきアリーナで運動会をしました。その中でとくに心にのこったのは、「だるまだワッショイ」です。

「だるまだワッショイ」の練習では、むずかしくてだるまを落としてしまいました。本番ではペアの子も落とさないようにうまく走ってくれました。とちゅうで友だちが、「がんばれ。」とおうえんしてくれて、ぼくは今までよりも気合いが入り、練習の成かを出すことができました。ぶじに運び終わってから、今度はぼくが「がんばって。」とおうえんすると、友だちは急に楽しそうに走り始めたので、ぼくはうれしくなりました。

来年の運動会もみんなといっしょに楽しく元気にやりたいです。



音楽会

「一人からみんなへ 輝こう 響かせよう 音楽会」のテーマのもと、各学年の特色を生かした演奏が体育館に響きました。明るいライトに照らされて生き生きと輝いて表現しました。友達の声や音に合わせて一つの音楽を作り出そうと練習を積み重ねてきたので自信を持って演奏し、心に残る音楽会となりました。

はじめての音楽会 笑顔とともに

1年生

- ・歌う前は、とても緊張しました。でも、歌い始めると楽しくなってきました。毎日一生懸命に練習した成果が出せて嬉しかったです。
- ・「太陽のサンバ」では、とても楽しく、「赤い屋根の家」では、寂しく歌う工夫をしました。音楽会は楽しかったです。
- ・体育館にたくさんの人がいて、びっくりしました。そして、お母さんたちが笑顔で歌をきいて、泣いてくれたことが嬉しかったです。
- ・とても楽しく歌えました。みんなで「太陽のサンバ」を元気に踊れたからです。歌うことが大好きになりました。
- ・聴いている人から拍手をもらって、嬉しかったです。来年も頑張ります。
- ・口を大きく開けて、歌いながら歩くのを頑張りました。練習をすると、踊りがクラスごとにはっきり分かれて上手にできました。

このように、初めての音楽会で、子ども達は緊張しながらも、一生懸命に歌い、聴いている方々に元気一杯の笑顔を届けることができました。聴く人だけでなく、歌っている自分たちも自然に楽しくなってきたようです。音楽の素晴らしさを改めて感じることができました。今までご家庭で子ども達と一緒に歌を歌ってくださり感謝いたします。



みんなで協力して作った音楽会

4年

音楽会に向けて、見ている人に楽しんでもらえるためにも、夏休み前からたくさん練習を重ねてきました。

リコーダーとカスタネットは学年みんなで音と心を合わせて練習しました。やっと音が合ったときには、一人ではできないことができたという思いになり、気持ちがまい上がるほど幸せな気持ちになりました。音楽会を成功させようと強く感じました。

いよいよ本番、「遠い日の歌」の二部合唱では音の重なりが感じられ、「スペインのカスタネット」もみんなの心が合わさって、終わった後はなぜか気持ちがすっきりしてうれしくなりました。

音楽の先生をはじめ、たくさんの方々に支えられました。感謝の気持ちを大切に来年の音楽会もがんばっていきたいです。



みんなでつくった音楽

6年

私は小学校生活最後の音楽会で、音楽は大きな力を持っていて、たくさんの人を笑顔にできることが分かりました。私たちは慣れない楽器を正しく使えるようになるまでたくさんの練習を積み重ねました。

私はリコーダーで、3年生からずっと演奏をやっていたけれど、難しい指づかいがあったり、音と音の間の指づかいを移動させるときの変な音が出たり、他の楽器とスピードを合わせるなどたくさんの課題がありました。そのような課題をクリアさせるためにみんなで朝練に行ったり、20分休みに練習をしたりと自分の時間を使ってたくさん練習しました。

また、合唱の方は、強弱をつけることがとても難しかったです。先生の指揮が大きくなっているのになかなか盛り上がる所で声が出せなかったのですが、歌詞の意味に注目したり、何回も歌っているうちに自然と歌に強弱をつけられるようになりました。

本番の2日間は朝からそわそわしてなんだか落ち着かなかったです。舞台上上がったときはたくさんの顔が目の前にあって足がふるえました。でも、私たちはたくさん練習してきたから絶対にやりとげられるという自信もわいてきました。そのおかげで優しい声で歌ったり、力強い演奏ができたりして本当に良かったです。

児童向けの音楽会が終わった日に5年生と一緒に下校しました。その時に、5年生から

「6年生の合唱をきいて自然と涙が出てきた。」

と言われ、私たちががんばってつくり上げた音楽は、本当に誰かに届いていたことが分かってとてもうれしかったです。

音楽会を経て、音楽は誰かに感動や希望、勇気などを与えてくれることが分かりました。この音楽会で学校内だけでなく天国にいるマリア様や戦争や災害で心が暗くなってしまった方々などの心に、目黒星美の奏でた音楽が届き、少しでも明るくなってくれるとうれしいです。これからもみんなと協力し、たくさんの音楽と出合いを届けていきたいです。

